



Title	国立国会図書館における遺跡資料：紙からデジタルまで
Author(s)	村上, 浩介
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23249
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

全国遺跡資料リポジトリ・シンポジウム
平成24年11月15日(木)

国立国会図書館における遺跡資料 —紙からデジタルまで—

国立国会図書館 関西館
電子図書館課 課長補佐

村上 浩介

はじめに

本日お話しする内容

- 国立国会図書館の概要
- 遺跡資料の収集状況
 - 冊子体
 - デジタル
- 遺跡資料リポジトリとの連携可能性
 - 相互補完関係
 - さらなる連携に向けて

国立国会図書館の概要

1. 国立国会図書館の概要

国立国会図書館について

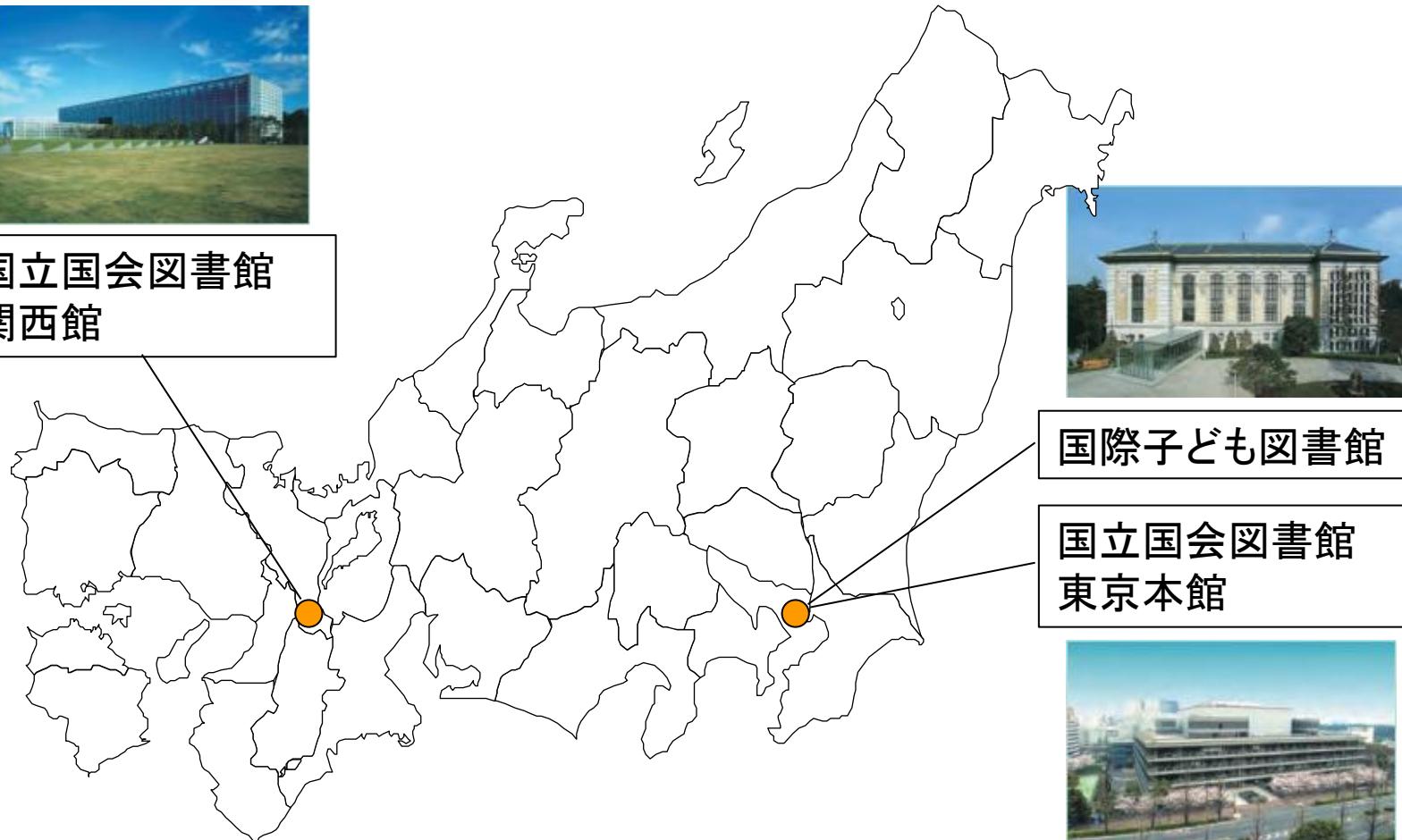
- 創設:昭和23(1948)年2月
- 使命:
 - 出版物を中心に国内外の資料・情報を広く収集し、保存して、知識・文化の基盤となる
 - 国会の活動を補佐するとともに、行政・司法及び国民に図書館サービスを提供する
 - 国民の創造的な活動に貢献し、民主主義の発展に寄与する

1. 国立国会図書館の概要

国立国会図書館について



国立国会図書館
関西館



国際子ども図書館

国立国会図書館
東京本館



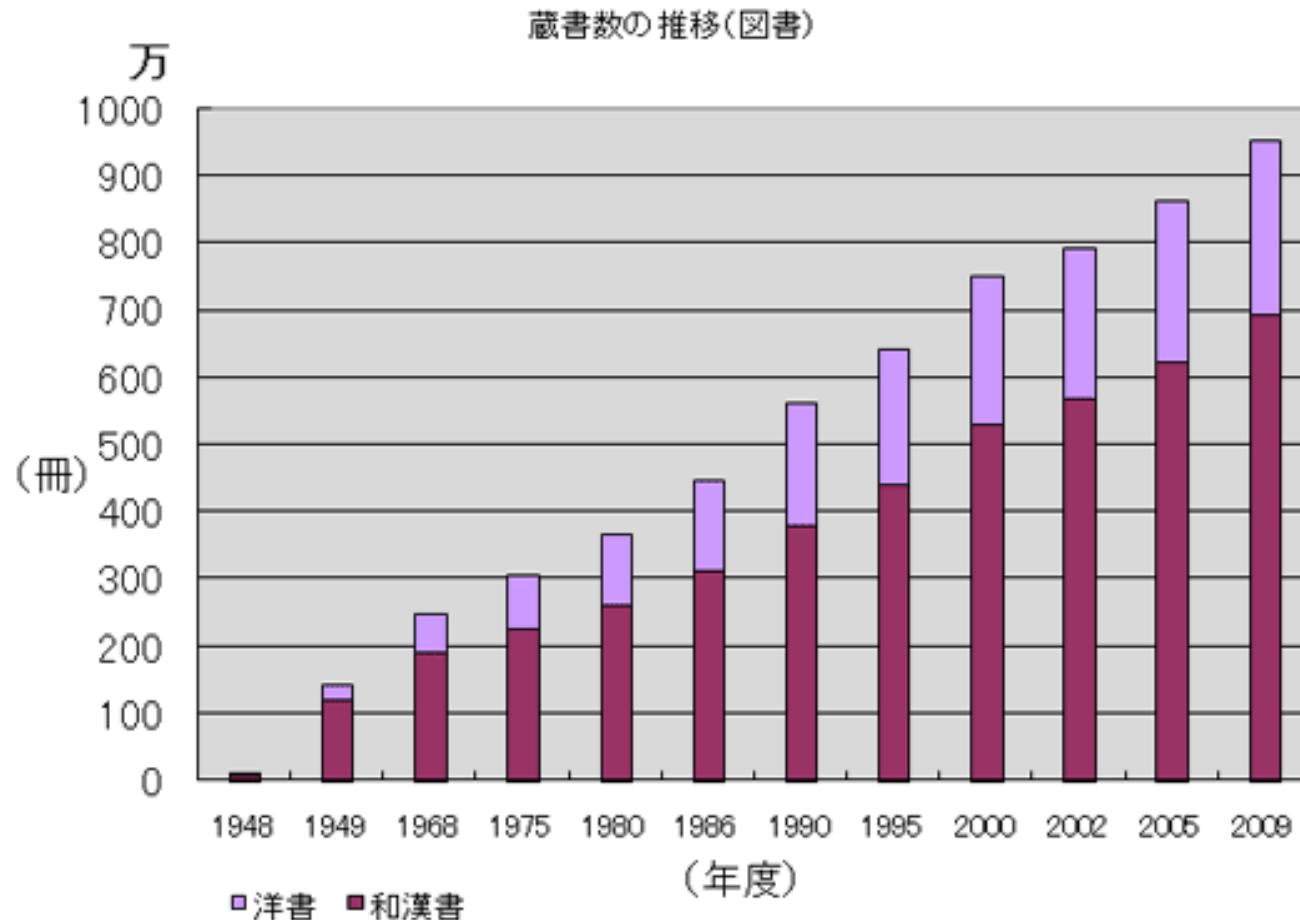
1. 国立国会図書館の概要

納本制度

- 国内で発行されたすべての出版物を、発行者等が国立国会図書館に納入する制度
 - 国立国会図書館法で規定（法定納本）
 - 現在と未来の読者のために、国民共有の文化的資産として永く保存し、日本国民の知的活動の記録として後世に継承する
- 2010年度に納入された図書は約13.9万冊
 - 参考：2008年度は約14.5万冊

1. 国立国会図書館の概要

蔵書数の推移



1. 国立国会図書館の概要

納本制度の対象資料

- 図書
- 雑誌、新聞
- CD-ROM
- ビデオ、DVD
- 音楽CD
- 楽譜
- 地図 等



1. 国立国会図書館の概要

納本制度における納入義務の範囲

	官庁出版物	民間出版物
誰が	国、地方公共団体、独立行政法人等	出版社、レコード会社等
どのくらい	複数部 (都道府県5部、市3部、町村2部 ...)	1部
いつまでに	発行後直ちに	発行の日から30日以内



1. 国立国会図書館の概要

納入率サンプル調査結果(平成19年度)

- 平成17年度の出版物を対象に実施
- 調査結果
 - 民間出版物:
図書:88%、雑誌・新聞:85%、
音楽・映像資料:39%
 - 官庁出版物:
国の市販資料:90%、非市販資料:46%、
地方公共団体:42%



インターネット上の情報の収集

- インターネット上の情報も法により収集
 - 公的機関のインターネット資料(ウェブサイト等)の包括的な収集(平成22年4月～)
 - 私人が発信するオンライン資料(図書・雑誌相当)を納入する義務(平成25年7月～)
- 背景
 - インターネット上にしかない情報が増加
 - 頻繁に更新され、消失しやすい



1. 国立国会図書館の概要

インターネット資料収集保存事業

- <http://warp.da.ndl.go.jp/>
- 12月末にリニューアル予定

1. 国立国会図書館の概要

インターネット資料収集保存事業

冊子体からウェブ版に移行した資料の一覧

従来の冊子体からウェブ版に移行した雑誌については、現在の納本制度(→納本制度とは?)では納本の対象になっていません。そのため、インターネット資料収集保存事業（ウェブサイト別）では将来の世代がウェブ版の雑誌へもアクセスできることを保証するべく、優先的にウェブ版移行資料の収集・保存・提供を実施しています。

下表にウェブ版移行資料のインターネット資料収集保存事業（ウェブサイト別）での収録状況を"あいうえお順"にまとめています。収録範囲の欄をクリックすると、「収集個体一覧」画面が開きます。当館所蔵情報の欄をクリックすると、「NDL-OPACの書誌画面」が開きます。ご活用いただければ幸いです。

あ行 か行 さ行 た行 な行 は行 ま行 や行 ら行 わ行 英字

1 2 3 4 5 6 next>>

雑誌名	公開者	収録範囲	当館所蔵情報 (NDL-OPAC)
あ行			
青森県森林資源統計書	青森県	平成19年-	昭和62年4月-平成14年4月
亜細亜大学大学院経営学研究論集	学校法人亜細亜学園亜細亜大学	30号-	1号-25号
網走の水産	北海道網走支庁	平成16年度版-	昭和55年度-昭和58年度;昭和60年版-平成16年版
医学分館逐次刊行物受入目録	国立大学法人東北大学附属図書館	2002-	1986年版-2000年版
石川県林業試験場業務報告	石川県	平成9年度-	22号-43号

1. 国立国会図書館の概要

インターネット上の情報の収集

	公的機関	民間
対象	ウェブサイト (電子書籍等相当 のものを含む)	電子書籍・電子雑 誌相当のもの
方法	国立国会図書館が 定期的に収集	発信者が送信 or 国立国会図書館が 収集
提供	インターネット公 開には許諾が必要	インターネット公 開には許諾が必要



遺跡資料の収集状況

2. 遺跡資料の収集状況

冊子体の収集状況

- 収集した発掘調査報告書には固有の分類を付与(平成14(2002)年9月～)
 - NDC(日本十進分類法)=210.0254
- 「発掘調査報告書」に分類する基準(※目安であり、実際には個別に判断)
 - 「発掘(又は試掘)調査報告書」とあるもの
 - 抄録があるもの
 - 「抄録集」「調査説明資料」は除く



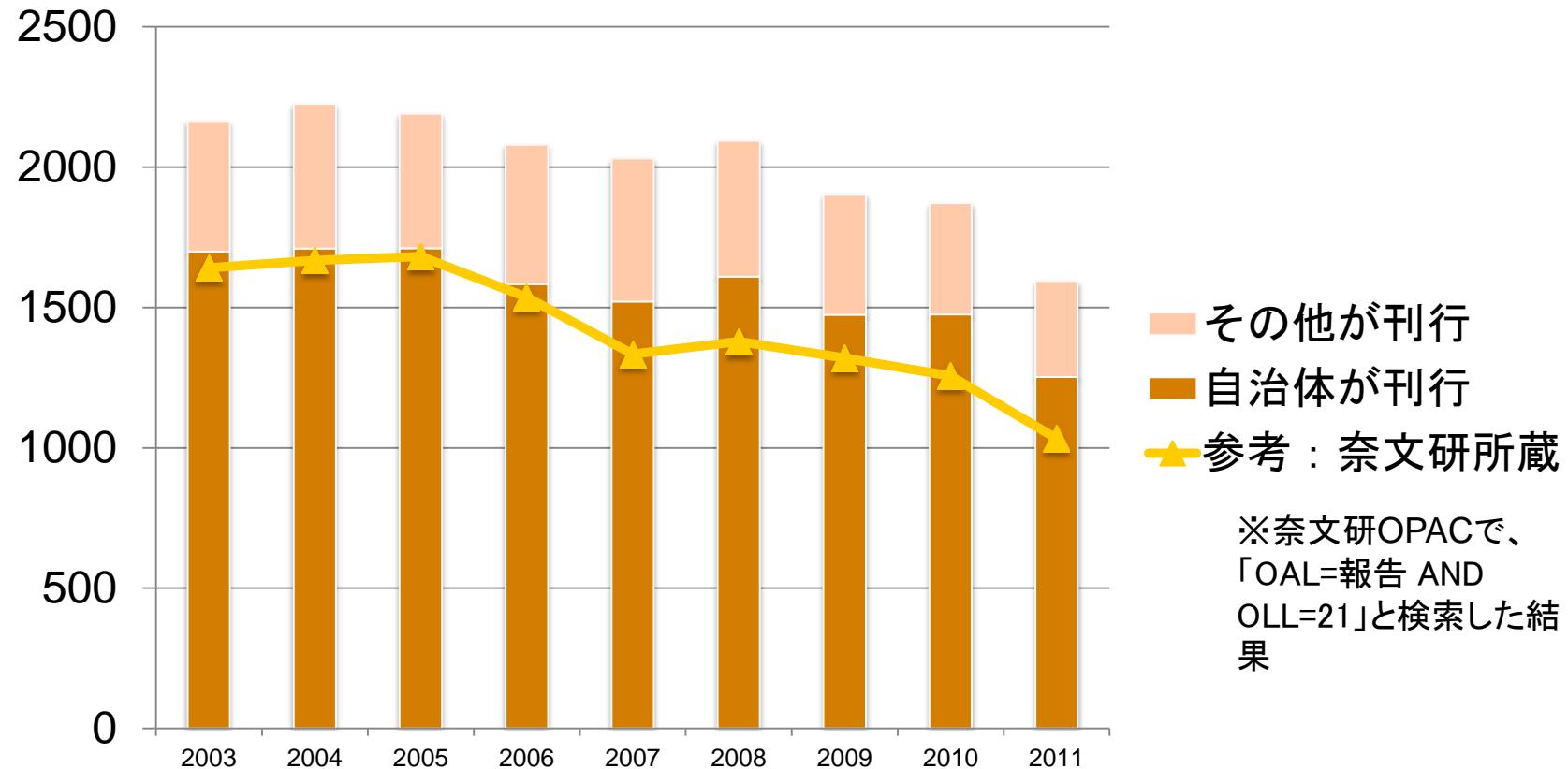
2. 遺跡資料の収集状況

冊子体の収集状況

- 平成22(2010)年度刊行分の収集率は、推計で約92%
 - 平成22年度刊行分の総数 = 1,738点
(文化庁「埋蔵文化財関係統計資料」より)
 - 国立国会図書館所蔵の2011年刊行分の数 = 1,595点
(平成24(2012)年10月時点の、所蔵目録(OPAC)での検索結果による)

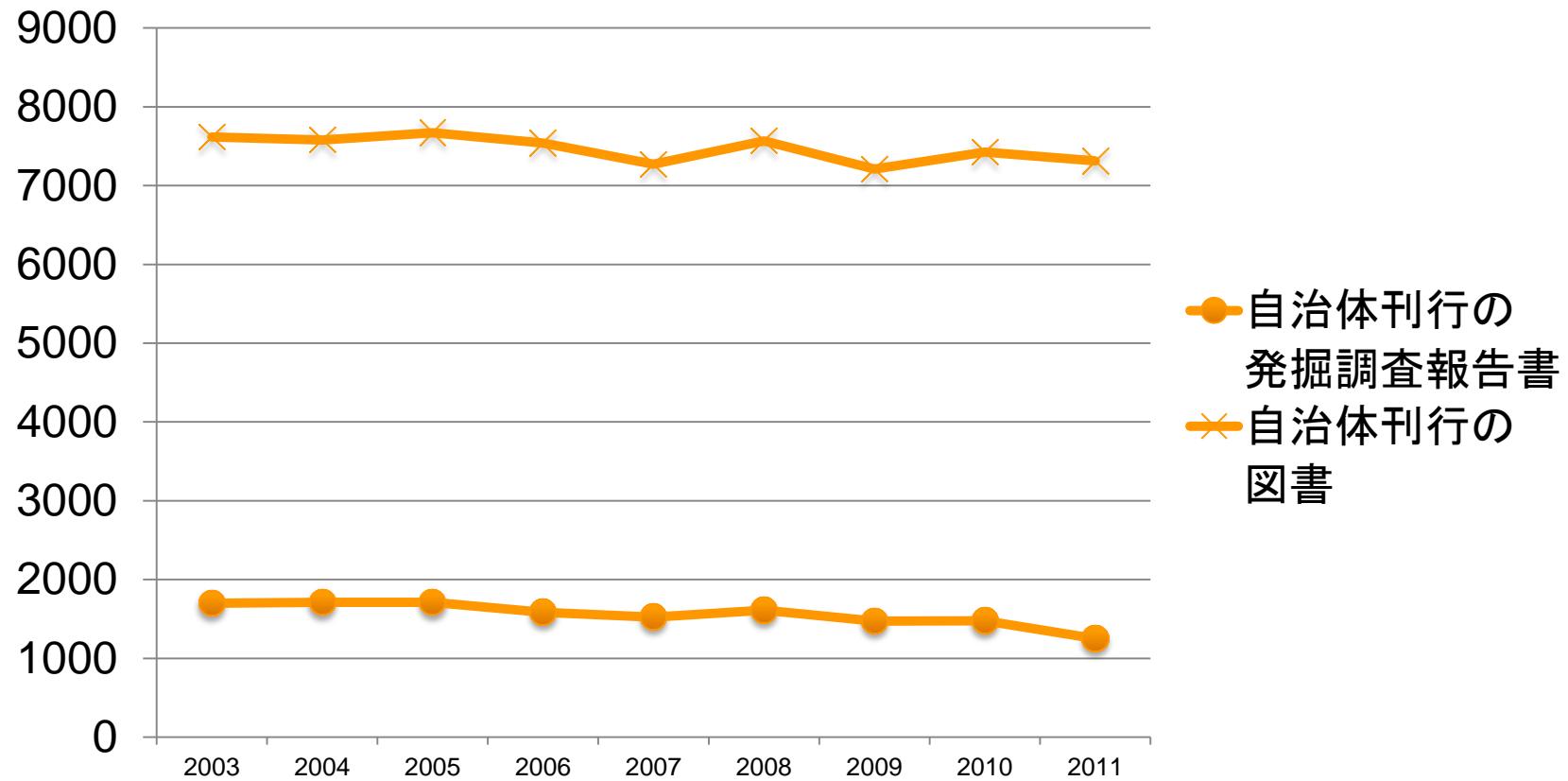
2. 遺跡資料の収集状況

冊子体の収集数の経年変化



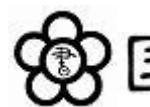
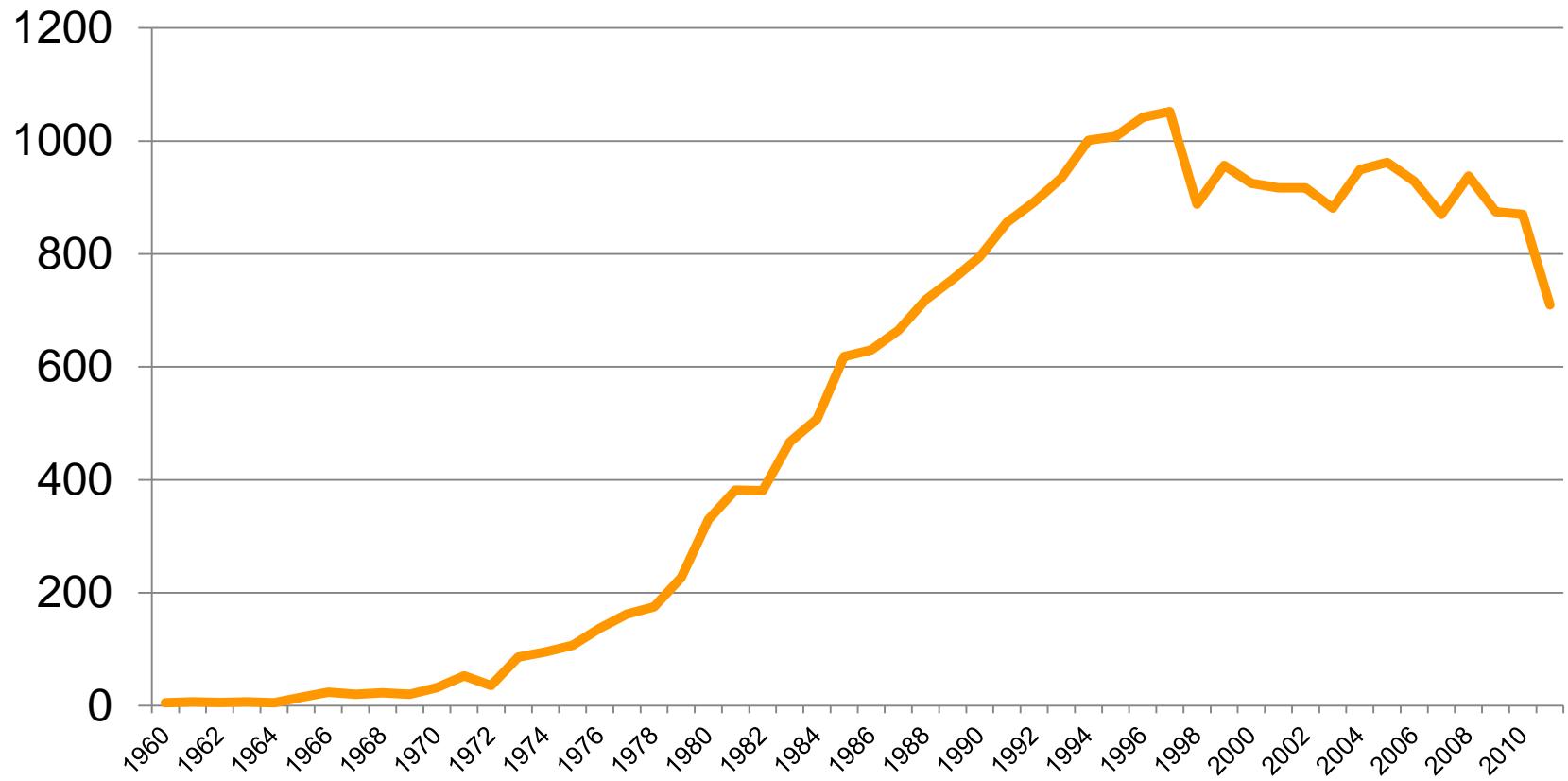
2. 遺跡資料の収集状況

地方公共団体刊行分の経年変化



2. 遺跡資料の収集状況

参考: タイトルに「発掘」「調査」「報告」



2. 遺跡資料の収集状況

デジタルの収集状況

- 遺跡資料リポジトリ内の報告書は収集していない
 - 国立大学→公的機関であり、ウェブサイトは定期的(年4回)な自動収集の対象
 - ただし、国立情報学研究所の機関リポジトリ一覧に掲載されているものは収集保留中
 - 継続的に公開・維持されると認められるもの

2. 遺跡資料の収集状況

デジタルの収集状況

- 地方公共団体のウェブサイト上の報告書については収集中
 - ただし、報告書を発信している埋蔵文化財センター等が地方公共団体直営の場合のみ
 - 平成22年4月以後、定期的(年4回)に自動収集
 - 地方公共団体ドメインの外部で公開されている場合や、ソフトウェアの都合上収集できないものは、収集していない

2. 遺跡資料の収集状況

デジタルの収集状況

- 財団法人・公益財団法人のウェブサイト上の報告書については、平成25年7月以後、収集予定
 - PDF→電子書籍に相当する
 - なお、研究紀要や広報誌等の「電子雑誌」については、一部、許諾に基づいてすでに収集しているものがある
例:「愛知県埋蔵文化財センター研究紀要」



2. 遺跡資料の収集状況

参考:47都道府県の状況(2012.10調査)

	直営	公益／一般 財団法人
PDFあり	6	6
うち収集済	2 (館内提供)	0
遺跡リポジ トリ収録	2	3



2. 遺跡資料の収集状況

参考:47都道府県の状況(2012.10調査)

- PDFあり
 - 県立:青森、宮城、三重、鳥取、香川、宮崎
 - 公益財団法人:山形、茨城、愛知、京都、愛媛、高知
- 国立国会図書館が収集済み
 - 青森、宮城(いずれも館内限定)
- 遺跡資料リポジトリにあり
 - 山形、茨城、香川、愛媛、宮崎



遺跡資料リポジトリとの連携可能性

3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

遺跡資料リポジトリとの相互補完関係

1. 収集
2. デジタル化
3. 提供
4. 保存

3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

遺跡資料リポジトリとは相互補完関係

1. 収集における相互補完

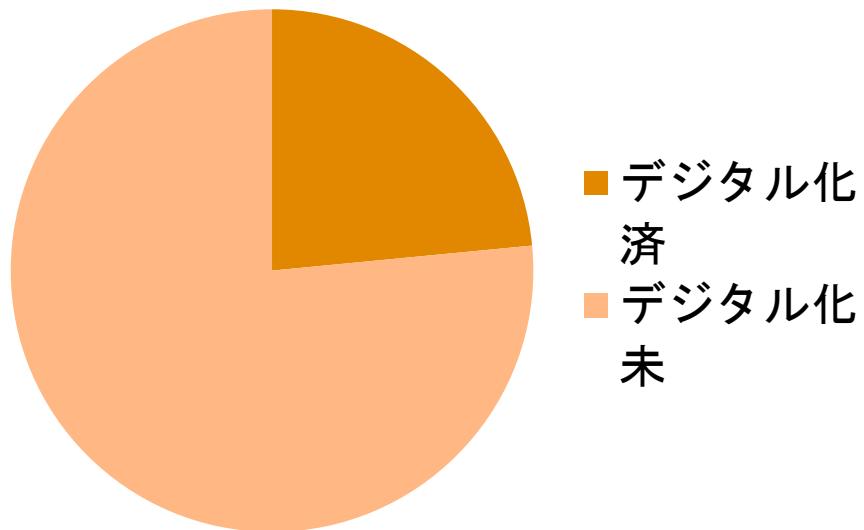
- 国立国会図書館でも、冊子体をすべて収集できているわけではない
→ 遺跡資料リポジトリ内の報告書が補完になり得る
- 国立国会図書館は、遺跡資料リポジトリ外のデジタル版報告書を収集
→ 遺跡資料リポジトリと「分担」

3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

遺跡資料リポジトリとは相互補完関係

2. デジタル化における相互補完

- 国立国会図書館は200万点以上の所蔵資料（国内刊行分の約1/4）をデジタル化済み



3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

国立国会図書館デジタル化資料

- <http://dl.ndl.go.jp/>
 - 古典籍:9万点
 - 和図書(明治～1968年):89万点
 - 和雑誌(明治～2000年):102.5万点
 - 官報(創刊～1952年4月):2万点
 - 博士論文(1991～2000年度):14万点
- 著作権処理済みの約41万点をインターネットに公開中



3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

国立国会図書館デジタル化資料

国立国会図書館デジタル化資料

義経記 8巻. [3]

▶ 解題 ▶ 目次・巻号 ▼ 書誌情報 サムネイル一覧 先頭 前 次 最終 27 /44 URL 印刷する フルスクリーン表示

義経記 8巻の書誌情報 [表示]
書誌情報
詳細レコード表示にする
タイトル
義経記 8巻. [3]
出版者
[出版者不明]
出版年月日
[元和・寛永頃]
公開範囲
インターネット公開(保護期間満了)
詳細レコード表示にする
コンテンツ情報
解題
卷 3 の 26 丁表。五条天神前の義経と弁慶。



国立国会図書館

3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

近代デジタルライブラリー

- <http://kindai.ndl.go.jp/>
- 「デジタル化資料」のうち、インターネットに公開している図書、雑誌を対象



明治以降に刊行された図書・雑誌のうち、インターネットで閲覧可能なデジタル化資料を公開しています。



3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

遺跡資料リポジトリとは相互補完関係

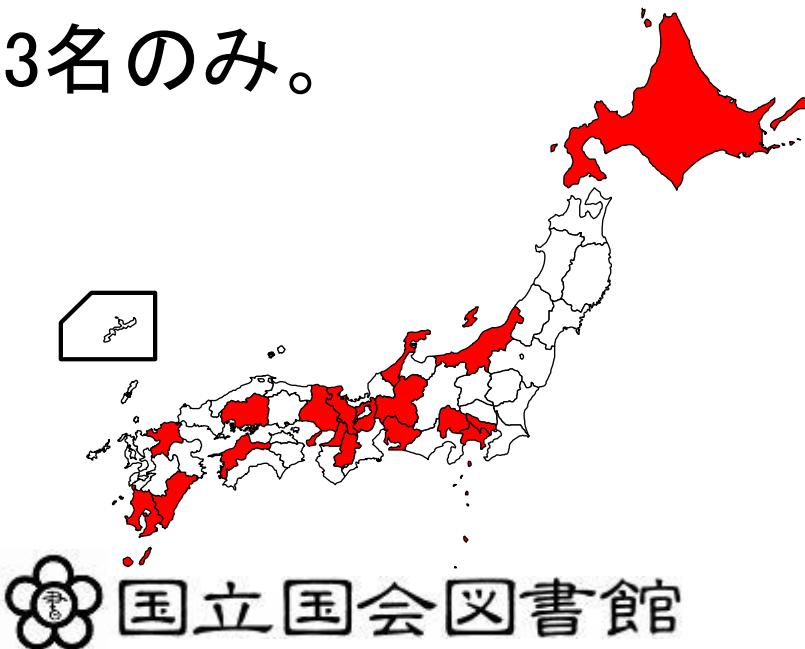
- デジタル化における相互補完
 - 国立国会図書館は200万点以上の所蔵資料をデジタル化済みだが、図書は1968年以前刊行分のみ（報告書は100点程度？）
→ 遺跡資料リポジトリと「分担」も可能
 - 国立国会図書館は公共図書館のデジタル化、デジタルアーカイブを支援する取組を実施している
→ 遺跡資料リポジトリへの協力も可能？



3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

参考: 遺跡資料リポジトリの知名度?

- 国立国会図書館「資料デジタル化研修」で
遺跡資料リポジトリについて質問
- 都道府県立図書館、市町村立図書館のデジ
タル資料／地域資料担当者27名中、知って
いたのは3名のみ。



3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

遺跡資料リポジトリとは相互補完関係

3. 提供における相互補完

- 遺跡資料リポジトリと「国立国会図書館サーチ」とが連携できれば、媒体を問わず、報告書を相当程度網羅的に検索可能となる
 - 遺跡資料リポジトリ内のデジタル版報告書
 - 遺跡資料リポジトリ外のデジタル版報告書
 - 国立国会図書館所蔵の冊子体報告書
 - 都道府県立・政令指定都市立図書館、大学図書館所蔵の冊子体報告書

3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

国立国会図書館サーチ

- <http://iss.ndl.go.jp/>
- 国立国会図書館、全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等の所蔵資料等(冊子体、デジタル)を一括りに検索



3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

遺跡資料リポジトリとは相互補完関係

4. 保存における相互補完

- 遺跡資料リポジトリから提供されている報告書は、国立国会図書館での利用＋全国の図書館への貸出利用が減ると考えられる
→資料保存につながる

3. 遺跡資料リポジトリとの連携可能性

さらなる連携に向けて(私見)

- もう一步進められそうな部分
 - 相互補完関係を前提とした事業展開
 - 二重投資の回避→効率的・効果的な分担
 - 地方公共団体や公共図書館との関係
 - 技術動向等の情報共有
 - データ、メタデータ、プロトコル等の連携
 - 国立国会図書館サーチとの連携
 - 国立国会図書館のデータの流用可能性

ご清聴ありがとうございました。